

## I 建学の精神・教育理念，教育目的・教育目標について

### 【建学の精神・教育理念について】

(1) まず建学の精神・教育理念が確立していればそれを記述し，その建学の精神・教育理念が意味するところ及び建学の精神・教育理念が生まれた事情や背景をできるだけ簡潔に記述して下さい。

金城女学校が創設された時の建学の精神は、「良妻賢母の育成」であった。さらに、「率先垂範」が教育の実践哲学であった。

金城学園の創設者加藤広吉は，明治 37 年，師範学校の予備校を兼ねた私塾学校を立ち上げるにあたって，「遊学」という言葉を用いたが，設立 2 年目に死去した広吉の後を継いだその妻せむは，認可された女学校を金城女学校と命名し，新たに建学の精神を「良妻賢母の育成」とした。当時は，日露戦争後の活気の出始めた社会状況の中で，青少年教育の充実，学校の新設等が社会の重大な関心事となっていた。その時まで石川県には県立第一高女と私立北陸女学校の二つの女学校しかなく，金城女学校の創設は新しい波の先駆けとなるものであった。女性は家庭を守り育児が大きな仕事と考えられた当時であって，「良妻賢母の育成」が建学の精神となったのは必然のことであった。

二代加藤二郎の「良き妻，優しき母の育成」，三代現理事長加藤晃の「明るく素直で，誠意ある人間の育成」と，言葉は変わるが常に社会を支える堅実な人材の育成を，建学の精神としてきた。

また加藤せむは，「質素勤勉」，「率先垂範」の教育理念を自ら実践し，学校経営や教育活動に全身全霊を注いだ。二代二郎の「教育とは云うてきかす事ではない。して見せる事でもない。している事である。」という言葉には，母親の後姿から学んだ教育の理念が含まれている。また現理事長の「教育とは学生と先生の全人格のぶつかり合いの中から生まれてくる学生への影響」という言葉にも，初代せむの教育理念と同質のものが流れていて，教員の人格による学生への全人教育の重要性を説いている。

平成 18 年に，短大開学 30 周年を迎える。本学園の開学以来の，社会が求める人材の育成と全人教育の実践という教育理念は，本学にもしっかりと受け継がれている。

(2) 次に現在は建学の精神・教育理念をどのような形や方法で学生や教職員に知らせているかを記述して下さい。

理事長は，毎年入学式の告辞や出版物の中で，建学の精神や学校の基本的教育方針を含む学園の沿革について事細かに述べ，教職員はもちろん入学生全員，保護者に至るまで周知徹底が図られている。

また受験生向けの学校案内の中で，3 ページにわたって学園の歴史が記載されている。

◆別冊添付資料No.1「金城大学短期大学部大学案内」 pp.42-44

◆別冊添付資料No.2「短大だより No.39」 p.2

### 【教育目的・教育目標について】

(1) 多くの短期大学が複数の学科・専攻（専攻科を含む。以下「学科等」という。）を設置しておられます。その場合、それぞれの学科等では建学の精神や教育理念から導き出された、より具体的な教育目的や教育目標を掲げておられるのではないのでしょうか（例えば、学科・専攻の設置認可の際に「設置の趣旨」等で示されたもの等）。

したがって、ここではそれぞれの学科等が設定している具体的な教育目的や教育目標を記述して下さい。

金城短大設置要項の中で、目的として次のように書かれている。

「本学は教育基本法・学校教育法及び児童福祉法に則り、高等学校教育の基礎のうえに、専門的な知識・技能を習得させ、円満な人格と豊かな情操を養い、もって社会に貢献できる心身ともに健全なる人物を養成し、併せて有能な職業人としての資質を養うことを目的とする。」

現在、本学では既に述べた教育理念・教育目標の下、具体的には①人間性豊かで心技共に優れた人間の育成、②地域社会に貢献する明確な使命感を持つ人間の育成、③実務型の人間の短期育成、を3学科共通の教育目標に掲げ、その実現に向けて努力を重ねている。さらに、各学科ごとに次のように教育目標を設定している。幼児教育学科においては、子どもを愛し育む心・知・技を身に付け、社会の要請に応え得る保育者・福祉実践者の育成をねらい、美術学科においては、美術造形教育により芸術文化創造の一翼を担い得る基礎能力と健全な社会人の育成をねらい、ビジネス実務学科においては、教養・社会性・専門性を身に付け、変化する現代のビジネス社会に対応し、地域で活躍できる人間の育成を目指している。また、幼児教育学科専攻科福祉専攻においては、きめ細かな実習指導を通して、学内で学んだ知識・技術を統合し、個々の利用者に応じた介護を提供できる専門職を育てることをねらいとしている。

(2) それぞれの学科等の教育目的や教育目標は、現在ほどのような方法で学生や教職員に周知しているかを記述して下さい。

金城大学短期大学部は、開設されて30年を目前にしている。「学生便覧」や年度初めの指針の中などで、理事長は主として建学の精神を、学長は教育目標について、機会あるごとに時代の変化に即応した本学のあるべき姿について言及してきた。また、各学科の教員間では学科会議で、学生には3年間で4回以上のガイダンス等を通して、その他のミーティングで、更に具体的内容について、機会あるごとに周知徹底が図られている。

特に、毎朝行われる教職員のミーティングについては特記事項(1)に記載のとおりである。

### 【定期的な点検等について】

(1) 建学の精神や教育理念の解釈の見直しや教育目標の点検が、定期的に行われている場合はその概要を記述して下さい。また点検を行う組織、手続き等についても記述して下さい。

短期大学部では、教育理念・教育目標と実際の教育活動の一貫性について、平成 15 年度以前に各部署での議論はあったが、組織的に会議の形で取り上げられたことはなかった。

しかし、平成 15 年度以後は自己点検評価室が中心となって組織的に点検し、教授会でも周知徹底を図っている。また、教員からの意見は、自己点検評価室が窓口となっている。

**(2) 建学の精神や教育理念の解釈の見直しや教育目的や教育目標の点検及びそれらを学生や教職員に周知する施策等の実施について、理事会又は短期大学教授会がどのように関与しているかを記述して下さい。**

本学では一度、平成 15 年度自己点検・評価報告書を作成した折に、教授会で審議し確認した。

建学の精神・教育の理念に含まれる精神は、基本的には不易と考える。しかし使われる言葉は時代によって変わる。また、社会の変化に伴って、教育目的・内容は変わっていく。周知する施策を含め、どちらの場合でも、少なくとも大学存在の基本的事項であるから、教授会で、問題によっては理事会で、会議の俎上に乗せる必要があると考える。

#### **【特記事項について】**

**(1) この《I 建学の精神・教育理念，教育目的・教育目標》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、建学の精神・教育理念，教育目的・教育目標について努力していることがあれば記述して下さい。また当該短期大学の独自の使い方や別の語句を使っている場合はその旨記述して下さい。**

本学にあって特徴的システムとして機能しているものに、毎朝の教職員のミーティングと、教員と学生のクラスミーティングがある。この二つのミーティングは開学以来続いている。しかし、誰も止めるべきだと言う人はいない。このシステムが、教員同志の意思の疎通を図るうえでも大いに役立ち、加藤二郎氏の教育哲学ではないが、対学生の教育活動の原点であることの共通認識がある。

教育理念・教育目標の理解の一助になっているものに、本学における学科会議と部科長会がある。3 学科ごとに年 10 回以上開かれる学科会議は、情報の共有と教育目標実現のための学科の施策の提案検討の場である。各教員は自分が所属している学科の教育コンセプトを理解しているから、他の学科から出される施策やその背景に敏感になる。それが会議の論議を盛り上げ、特色の異なる 3 学科をまとめるのに大いに役立っている。また、部科長会も 3 学科からの提案を検討する際、本学の教育理念・教育目標を根底に議論がなされている。